

公明こうち

市議会ニュース

発行所／高知市議会公明党
住 所／〒780-0870
高知市本町5丁目1番45号
TEL:088-823-9403
FAX:088-871-2485

2024年(令和6年)11月1日 第63号

高知市議会  公明党

第503回
高知市
議会定例会

希望の未来を実現できる高知市に！



やまね たかひろ
山根堂宏 議員

山根堂宏議員は、一問一答方式で以下の質問を行いました。

◆市長の政治姿勢について

○災害協定の現状と今後の取り組み
協定を結んでいる相手先との協議や総点検の進捗状況と今後の取組みを、市長に伺いました。

○災害発生時の受援体制の整備・強化
各部署における受援体制の現状と、今後の体制整備の方針について、市長に伺いました。

◆「よさこい高知文化祭2026」に関して

令和8年の秋に高知県で初開催の「国民文化祭」と「全国障害者芸術・文化祭」は、統一名称が「よさこい高知文化祭2026」に決定。実行委員会の組織構成と各部門の役員体制について、市長と総務部長に伺いました。

◆消防行政について

○高知県消防広域化に関して
総務省消防庁では、「市町村の消防の広域化に関する基本指針」が示され、令和5年度から高知県においても議論が進められています。そこで、高知県の消防広域化における課題や県市の役割を、市長に伺いました。

○消防団員の確保に関して
消防団員確保に向けた施策と、(公財)高知県消防協会との連携を消防局長に伺いました。

○消防出初式に関して

年明けの恒例行事の消防出初式が、令和6年は高知市中央公園で、非常に寒い中での開催となったことから、消防職員や消防団員の健康や安全面、雨天時を含め全天候型の場所選定を、市長と消防局長に求めました。



いの めぐみ 議員

いのめぐみ議員の質問は以下のとおりです。

◆災害ケースマネジメントについて

被災した家屋の被害判定において、準半壊では義援金が10万円程度とほとんど支援がないのに対し、わずかな判定の差で半壊となると、公費解体の支援や被災者生活再建支援金のほか、義援金の金額も大幅に増額されることから、罹災証明書の内容が、災害発生後の市民の皆様への生活再建に大きく影響を与えるため、高知市における平時からの被害家屋の判定についての研修会などスピード感を持って取り組む事の重要性を訴え、災害ケースマネジメントの取り組みに対するご決意を市長に伺いました。

桑名市長からは「高知市強靱化計画第3期初年度となる令和7年度からの災害ケースマネジメントの本格的な取り組み開始にむけ準備を進める」との答弁がありました。

◆水道水に含まれる有機フッ素化合物PFAS

PFASのうち、健康への影響が懸念されるPFOSとPFOAによる健康被害が国内で発生した事例は、確認されていません。

その上で、環境省が全国的に水道事業者などに対して水質調査の報告を求めていることから、市民の皆様の命と健康を守る観点において本市の水質検査の状況を伺いました。

上下水道事業管理者からは「年2回の検査を33地点で実施し、仁淀川や鏡川からはPFOS及びPFOAを検出しておらず、検出された地点でも暫定目標値を下回って推移しており、今後も水質管理に努めていく」との答弁でした。



にしむら あきお
西村 昭夫 議員

西村昭夫議員は以下のとおり一問一答方式で質問しました。

◆自動販売機横のリサイクルボックスへの異物混入について

高知市における自動販売機横のリサイクルボックスへの異物混入問題をどのように認識されているか環境部長に伺う。

市内10か所のリサイクルボックス内の投棄物、内容物の確認調査した結果、酒類の缶や栄養ドリンクのビン、コンビニエンスストアやファーストフード店の飲料カップなど、本市においても多数の異物混入を確認している。

また令和4年度には、環境省において異物混入率低減を目的とした実証事業を行い、異物混入対策について具体的な検討が進んでいるとの報告を聞き、課題解決に向けた対策の必要性を再確認した。

問 本市の施設に設置される、自動販売機横のリサイクルボックスのいくつかを新機能(投入口を下向きにし、ペットボトル・缶以外が入らない形状)を持つリサイクルボックスに置き換えることはできないか市長に伺う。

答 担当課から本庁舎の自動販売機設置事業者に相談したところ、設置事業者の協力により、先週の9月11日に本庁舎1階西にある自動販売機横に3個のリサイクルボックスを設置した。本市ではこの他にも、各庁舎や周辺施設等にもリサイクルボックスを設置しているで、国や他の自治体の事例等も参考に、事業者のとの連携と協力もいただきながら、引き続き、新機能のリサイクルボックスの設置拡充に努めたい。



おおくぼ たかし
大久保尊司 議員

◆認知症対策について

問 公明党は、誰もがなる可能性の認知症について「支える対象」として捉えるのではなく、症状が出てきたとして暮らす認知症の人が自分らしく安心して暮らせる一人の尊厳のある人として、その個性と能力を発揮し、社会で共に支え合って生きていることをめざす「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の制定をリードしてきた。

その基本法が本年1月に施行され認知症についても、住み慣れた地域で仲間とながらながら自分らしく暮らし続けることができる「新しい認知症観」が示され、今後は、認知症の本人の視点に立つて様々な施策を進める姿勢が明確にされている。こうした「新しい認知症観」は高知市の次期計画に示すのか。

答 今回の「認知症基本法」では、都道府県や市町村に認知症施策推進計画の策定が求められており、高知市においては令和6年3月に策定した高齢者保健計画に内包する形で策定している。

次期計画の策定に当たっては、さらに「新しい認知症観」の理解促進が図られるものにしていくと考えている。

加えて、この「新しい認知症観」の理解促進を図るためには、認知症のご本人とご家族の視点が重要であり、次期計画の策定の過程において、認知症のご本人やご家族の皆さまのご意見を丁寧に聞きながら、得られたご意見を可能な限り計画に反映させて、認知症になっても安心して暮らして続けることができ、そして、希望を持ってやりたいことが実現できる支援の仕組みを構築していきたいと考えている。



たかぎ たまえ
高木 妙 議員

◆長浜小学校児童プール事故について

高木妙議員は、以下の内容で質問しました。

7月5日 高知市立長浜小学校4年生の児童が、学校管理下の水泳の授業中に、溺れて亡くなるという、あってはならない事故により児童の尊い一命が失われました。

心よりご冥福をお祈り致します。

この事故は、学校や教育委員会の安全管理に対する危機意識の低さと、水泳授業への緊張感に欠けた対応であったと言っても過言ではありません。

私は、ご遺族が望んでおられる事故関連の詳細を明らかにするためにも、検証委員会がすべての会議を「非公開」と決定したことを尊重し、検証委員会が本来なすべき調査がなされるように、客観的に事態の問題点を検証する環境を作ることが必要であるといたしました。

そして、報道関係の方々には、痛ましいこの事故に対し、モラルをわきまえた真摯な取材をお願いしました。また、高知市議会公明党は、プール事故について「ただすべき時」を待ち、必要性を見極めて「ただしていく」としています。

◆ペット同行避難について

ペットが、伴侶動物として生活するスタイルに変化していることを踏まえ、災害時の避難所の運営のあり方を考える必要性についていただきました。

執行部から、ペット防災手帳の作成・スタターセットの設置・風水害時のペット同室避難所の開設、高知市が主体となって開催するペット同行避難訓練の実施について前向きな答弁を引き出すことができました。

浸水に備え排水能力向上 (下知ポンプ場)

高知市は南海トラフ地震に備え、下知地区の基幹施設となるポンプ場の改築事業を進めています。

同事業については市議会公明党が本会議の個人質問や予算要望などで下知地区の雨水対策やポンプ場の更新について訴え、整備のスケジュールをただすなど粘り強く推進してきました。

市民の皆さまの生命や財産を守る観点から、南海トラフ地震に備え、屋上の一時避難場所や、ポンプ場の耐震・耐津波化を図るとともに、改築にあわせた排水能力の向上を図る工事を行っており、令和8年度の供用開始を予定しています。



(屋上で説明を受ける高知市議会公明党議員団)



2024年も残すところわずかとなりました。元旦には、能登半島地震が発生し、甚大な被害に騒然とする中、翌日には羽田空港で航空機衝突事故が発生。続いて政治資金パーティーに関わる裏金問題など、年頭より心重い出来事に、「この国はどうしたのか」と思う年明けでした。

そんな空気を一変したのは「2024パリオリンピック」で、日本人選手の活躍は目を見張るものがありました。中でも、レスリングの櫻井つぐみ選手と清岡幸太郎選手の金メダル獲得は、高知県では、92年振りのことであり、未来に希望をつなぐ快挙となりました。

幼馴染の二人は、「オリンピック選手になって金メダルを取る」とこの目標に向かって、厳しく辛い練習を積み重ねられたことでしょう。

それぞれの決勝戦では、どこまでも攻め抜く強さと、あきらめない根性や、「希望の未来は実現できる」との強い意思に満ちた「ぶれない軸」を持つ強さを感じました。

私たち高知市議会公明党にも、市民ニーズに答えるために、子ども医療費の無償化や産後ケアなど、段階を踏みながら積み上げて来た事業実績がたくさんあります。今後も、未来を託する人たちがそれぞれの、夢や希望を実現できる社会を築くために「大衆のために」の立憲精神のもと、「ぶれない軸」を持ち取り組んで参ります。

(凜)